

(4) 文化景観としての地形・事物・事象の保全対策に係る検討

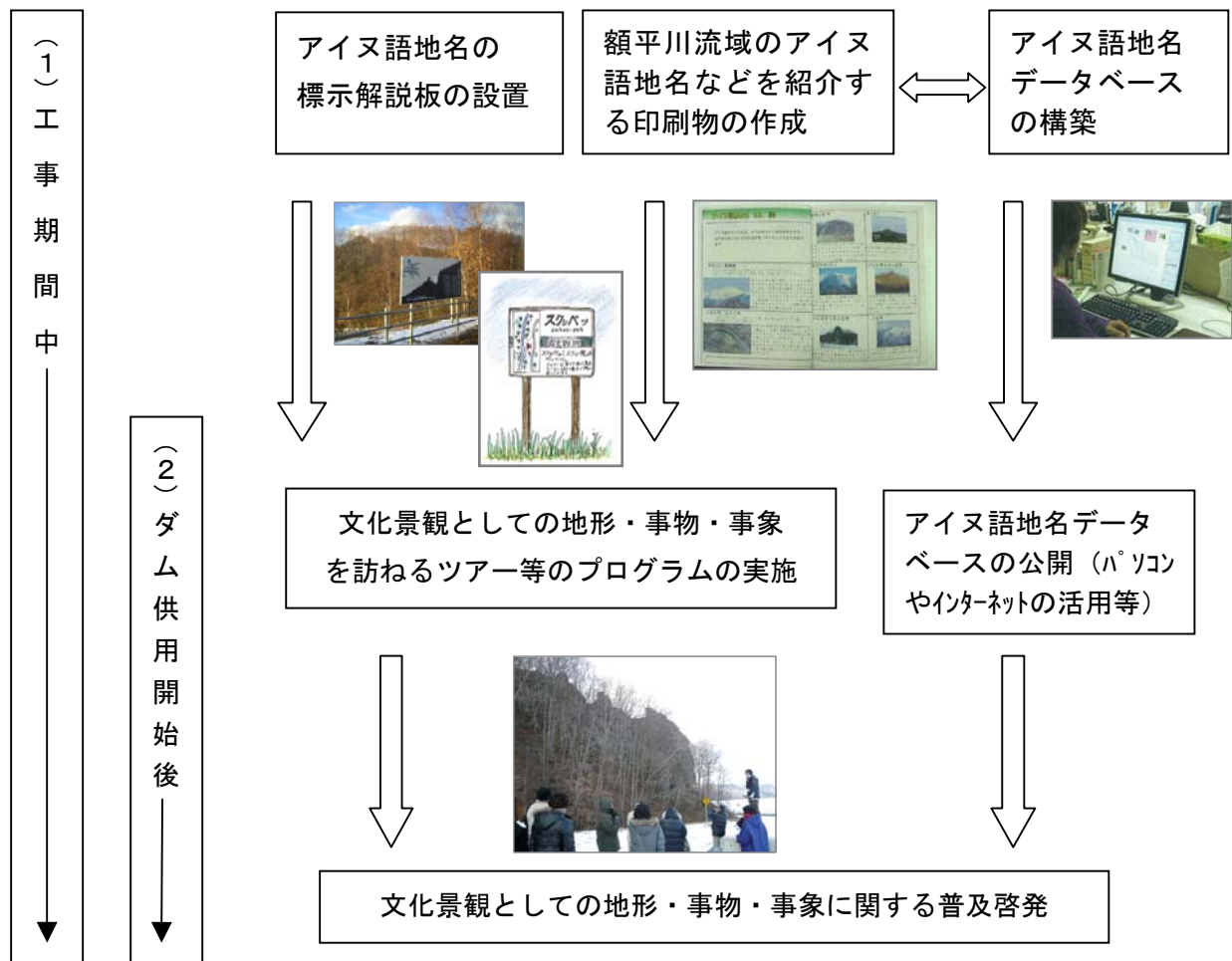
〔文化景観としての地形・事物・事象に係る保全対策取り組みイメージの例〕

◆実施時期と実施方法の想定

- 工事期間中(1)に保全対策が段階的に進展していくものと、工事期間中の準備的期間を経て、ダム供用開始後(2)に継続的に取り組みが行われていくものが考えられる。
- 工事期間中は、ダム事業者による調査活動を基本に、アイヌ語地名等の額平川流域を中心とした沙流川流域の文化景観としての地形・事物・事象に関する情報収集と整理・とりまとめをもとに、順次、印刷物の制作やデータベースの公開を行うとともに、標示板等を設置して、体験プログラムに役立てる。
- 工事期間中ならびにダム供用開始後は、普及啓発資料の作成や体験プログラム等の実施において、アイヌ文化の担い手の参画を得ながら、文化景観としての地形・事物・事象の普及啓発を通じた保全に取り組む。

【時期の想定】

【保全対策としての取り組みの一例】



(出典：上記2点の写真は、第8回検討会資料-2より引用)